

カーライフをもっと楽しく!

TAKE FREE ご自由にお持ちください。

Keeper Fan!!

[キーパーファン]

February 2016 Vol.23

Keeper's Drive Story

日本の世界遺産を訪ねて

SUPERGT 2016 始動。



Special Interview

指揮者

小松長生

「キレイを長く」のカーコーティング

Keeper

<http://www.keepercoating.jp>

強引に運転せず、
そっと足をあてがって、
滑るようにドライビングする。
指揮も同じことで、
勘どころはおさえつつ、
任せるところは任せると
最高の演奏ができます。

世界各国のオーケストラで采配を振るう指揮者・小松長生さん。指揮をしているときの鋭い眼光と動作は、舞台を降りると一転、気さくでやさしい雰囲気。穏やかな語りの中にも、音楽に対する愛と情熱、指揮者という仕事への誇りが伝わってきます。指揮者という謎めいた仕事のお話とともに、クルマへの想いを聞きました。



指揮者 小松長生

Chosei Komatsu

福井県生まれ。東京大学美学芸術学科、イーストマン音楽院大学院指揮科卒。エグノン指揮者コンクール優勝。カナダ室内アンサンブル音楽監督、東京フィルハーモニー交響楽団正指揮者等を経て、コスタリカ国立交響楽団桂冠指揮者及びセントラル愛知交響楽団名誉指揮者。金城学院大学教授。これまでに「題名のない音楽会」、「NHKららら クラシック」、ベルリン・フィルハーモニー創立50周年記念日独第九演奏会などを指揮。音楽藝術学博士。著書「リーダーシップは『第九』に学べ」（日本経済新聞出版社）。

コーティングのイメージが ガラッと変わった！

はじめにパッと見た時、自分の車だっけ気がつきませんでしたよ！素通りしちゃいました。ボディはもちろんですけれど、ワイパーや窓枠、ミラーの部分もこんなにキレイになるとは思っていませんでした。

私はクルマ社会の北米に20数年おりました。冬は寒さが厳しいので道路には塩が大量にまかれます。サビ止めのためにコーティングをするというイメージしかなかったのですが、日本に帰ってきたときに「雪もそんなに多くないし、コーティングしなくていいかな」と思っていました。今回やってみたらガラッとコーティングのイメージが変わりましたね。手拭きでの洗車をたまに自分でします。キレイにするというよりは、スキンスリップするように洗っています。クルマは良き仲間という感じですね。北米では普段から1、2時間、平気で運転しますし、生活を楽しむためには欠かせなかったもので、車内は特別な空間でした。日本に帰ってきたからそれは変わらなず、ドライブはよくしますよ。現在、名古屋にある金城学院大学教授も務めています。名古屋はちょっと行けば自然や温泉があちこちにあって満喫できます。

カラヤンに魅了され、 指揮者をめざす

指揮者になりたいと思ったのは、4歳から5歳のころです。当時テレビはまだモノクロで夕方4時ごろから番組がはじまるんですが、力道山が登場するプロレスやNHKホールでのコンサート、あとはディズニート教養番組と45分のドラマくらいしかありませんでした。そんな中、ヘル

ベルト・フォン・カラヤンが単身来日してNHK交響楽団を指揮したのを見て、子ども心に魅了され、毎週夢中になって見ていました。その様子を見た母の「指揮者になりたいの？ほんなら、なんね（それなら、なりなさい）」と福井弁で言ったひとことが指揮者になるきっかけでした。それが以来、指揮の物真似をはじめ、小学校になると、ことあるごとに手を挙げて、合唱やバンドの指揮をしました。そしていろいろな方々に支えられてよく指揮者になることができました。簡単になれるものではないですね。両親が水を差すことなく寛大にサポートしてくれておかげだと思っています。指揮者になった後、両親に「なぜ反対しなかったのか？」と聞いたことがあります。父は20歳のとき、学徒動員で死線をさまよひ、戦後、大学院から念願だった研究者としての誘いがあったのに、衰弱とマリアのために断念せざるを得なかったこと。母は、踊りと演劇に憧れ、上京を真剣に望ん

「指揮者」は企業の「経営者」

指揮者は、指揮法や読譜力はもてるんのこと、作曲理論や西洋音楽史から文学史、美術史、語学、哲学にいたるまでさまざまなことを勉強しなければなりません。なかでも指揮者にとって最も必要な能力は、様々な役割を総合的にこなしていくことでしょう。人前で指揮するという役割的な要素もありますし、楽曲を分析していく研究者であり、多彩で強烈な個性をもつ演奏者たちを束ねていく現場監督でもあります。また指揮者の仕事ぶりは楽団の経済面にも直結し、経営面にも関与せざるをえません。言ってみれば指揮者の仕事は、企業組織の経営者や管理職と共通することが実に多いと思います。

指揮することは、 ドライブすること

私は、視界が良くて、シンプルかつ機能性の高いクルマが好きです。「指揮をすること」と「クルマを運転すること」が似ているからかもしれない。



そつとアクセルに足をあてがうだけで、すうっと動いていく。強引に自分の力で運転するのではなく、95%は任せ遊ばせておくという感覚。ただしクルマの方向や速度が変だと感じれば、絶妙なタイミングで修正してあげる。指揮も同じことで、無駄口を挟んだり、手取り足取り指図せず、勘どころはおさえつつ、任せるところは任せる。おかしいと感じたときには、楽員たちのブライドにも配慮はしながら、ときにはジョークを交えながらスパッと指示する。そうすると演奏者たちは「オッ、解っている、気も遣ってってくれる」と感じ、安心してかつ円滑に演奏することができるとしよう。ときには指揮棒は動かしながらも気配を消すことだってあります。良い仕事の邪魔をしないように、「すべての責任は私がとる！」くらいに腹をくって任せるところは任せる。そしてリハーサルからゲネプロ、本番までのロードマップを綿密に練って、楽員たちそして自分自身が頂点で本番を迎える。その時は、全員が曲に没頭し自分が弾いているのか弾かされていいるのか分からなくなつてきます。指揮者の動作と楽団の音とが一体化し、滑るようにドライブしているような至福の時間となります。それをたくさんのお客様に経験していただくのが指揮者の役割だと思います。

難病の子どもたちも教えてくれたこと

コンクールやオーディションで勝ち進み「どや顔」で指揮していた修業時代に、米国の大学病院病棟でのクリスマスコンサート指揮を任せられました。時間になると、ホールは幼児や青少年少女を乗せた点滴ツリー付ベッドで一杯になり、驚いて尋ねますと、現代医学では治療困難な重病患者ばかりで、今ここにいる子どもたちは、来年、再来年にはこの世に一人もいないだろうと教えられました。「クリスマス音楽は、こんなに哀しいまでに幸せな音楽なんだ」と生まれて初めて実感し、指揮台で目頭が熱くなりました。

明るい歓声、口笛のなか、ホールをあとにすると扉が閉められました。皆が涙をぬぐっています。今生で最後になるかもしれないコンサートを、期せずして指揮した巡り合わせの重さ、自分の仕事、他の人々にとつていかに幸福で大切な機会でありうるかを突き付けられ、指揮者として、いや、人間として自分の足を地に着ける転換点となりました。

リーダーに必要なのは

「感動する心」

各地のコンサートホールから演奏会プログラムのアドバイスを求めら

れます。オーケストラだけでなく、室内楽や子どものためのコンサート、ポピュラー歌手とオーケストラのコラボレーションのプロデュース等を行うことで、コンサートホール活性化の一助となれど願っています。幼い子どもからご老人にいたるまで多くの人々に一流の音楽と感動をお届けすることも、私自身にとつても心の糧となっています。

指揮者に限らずリーダーは、膨大な知識や経験の蓄積に時間とエネルギーをとられ、日々の仕事にも忙殺されて、ついつい大切なものを忘れてしまいがちです。それは、感動する心を持ち続けることです。チームメンバーが素晴らしい仕事をしたときは、わがことのように喜べて祝福できる心。そんな心をもっている、皆が、自分たちも予想さえできなかった高みに登れるのだと思います。リーダーの務めは、それが決し



て容易ではないことを深く認めながらも、どのような状況でも感動できる心を忘れないようにすることだと、私は思っています。